

認定実務実習指導薬剤師 向けの研修会



病院実習



薬局実習



令和3年2月19日
丈夫屋 二子薬局グループ
矢野 裕一

本日の内容

- ① 最近の薬学教育の動向
- ② 受入れ施設決定の流れ
- ③ 新旧コアカリキュラムの比較
- ④ 新しい評価方法
- ⑤ 受入れ薬局アンケート結果
- ⑥ 学生アンケート結果
- ⑦ トラブル他



大学教育 70% 共通カリキュラム (文科省)

薬剤師になるために学ぶ6年間

薬学部 学科案内 6年制

予防から治療にいたる
すべての段階をカバーする
薬剤師教育体制

漢方・臨床・健康の3領域は人が一生で関わる医療分野のすべてをカバーしています。
また従来の治療に向けた漢学のみなならず、そこにいたるまでの予防や症状緩和などに深く関わる本学の卒業生は、国民のQOLや健康・寿命延長に大きく貢献する人材となります。
横浜薬科大学は新しい薬学部教育、薬学研究を通じて、日本人全体の健康の向上に貢献する大学です。

現代医療が待望する
3領域が融合する
教育・研究体制を確立

横浜薬科大学に設置された漢方・臨床・健康の各学科は、個々の領域で高度な教育内容を確立しているだけでなく、相互に密接な連携を行って、現代医療が求めるあらゆる課題に応える研究体制を整えています。
また、6年制を見越した上で整備された実験・実習施設は薬科大学中トップクラスのレベルを誇るものです。
この教育・研究体制のもと、漢学分野はもちろん、生命科学の各専門分野のフロントラインで活躍する教員を擁する横浜薬科大学は、“薬物治療の患者個別化”をリードする、まったく新しい薬学専門大学として社会・医療から大きな期待が寄せられています。

薬学部カリキュラム 6年制 幅広い専門知識と人の苦しみがわかる“側心の心”を持つ薬剤師を養成 (2017年4月現在)

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	医療人としての自覚を持ち、 漢学の基礎知識を修得	漢学専門科目が本格化。 実習がスタート	漢学の臨床的な科目が増え、 OSCE対応実習も開始	共用試験合格を目指し、 薬剤師の実務実習の対策開始	5ヶ月間におわる病院・薬局での 実務実習や、卒業研究に取り組み	6年間の集大成としての 卒業論文と、国家試験対策
入学	●漢学概論 ●一般教養科目 ●漢学導入科目	●漢学基礎実習 ●漢学基礎科目	●漢学専門科目 ●漢学専門実習	●漢学実習 ●漢学実習 ●漢学実習Ⅱ ●漢学実習Ⅲ	●漢学実習Ⅳ ●漢学実習Ⅴ	●漢学実習Ⅵ ●漢学実習Ⅶ
教養科目	・情報科学入門 ・基礎英語1,2 ・国語表現法 ・漢学英語1 ・情報処理実習 ・心理学	・漢学英語2	・漢学英語3	・漢学実習英語	・漢学実習英語	・漢学実習英語
選択科目	・社会と法律 ・英会話1,2 ・社会福祉学	・社会と経済 ・中国語1,2 ・医療と法律				
学科専攻	漢方薬学科 臨床薬学科 健康薬学科	漢方薬学科 臨床薬学科 健康薬学科	漢方薬学科 臨床薬学科 健康薬学科	漢方薬学科 臨床薬学科 健康薬学科	漢方薬学科 臨床薬学科 健康薬学科	漢方薬学科 臨床薬学科 健康薬学科
薬学導入	・漢学概論 ・社会漢学1 ・基礎漢学 ・漢学化学 ・基礎漢学 ・基礎漢学 ・基礎漢学 ・基礎漢学	・漢学概論 ・漢学化学2	・漢学概論 ・漢学化学2	・漢学概論 ・漢学化学2	・漢学概論 ・漢学化学2	・漢学概論 ・漢学化学2
化学系	・基礎化学講座 ・薬用植物学	・有機化学3,4 ・薬用植物学	・有機化学3,4 ・薬用植物学	・有機化学3,4 ・薬用植物学	・有機化学3,4 ・薬用植物学	・有機化学3,4 ・薬用植物学
物理系	・分析化学1	・分析化学2 ・薬品物理学1,2	・分析化学2 ・薬品物理学1,2	・分析化学2 ・薬品物理学1,2	・分析化学2 ・薬品物理学1,2	・分析化学2 ・薬品物理学1,2
生物系	・細胞形態学1,2 ・細胞生物学	・細胞形態学1,2 ・細胞生物学	・細胞形態学1,2 ・細胞生物学	・細胞形態学1,2 ・細胞生物学	・細胞形態学1,2 ・細胞生物学	・細胞形態学1,2 ・細胞生物学
衛生系	・衛生学1	・衛生学1	・衛生学1	・衛生学1	・衛生学1	・衛生学1
基礎医療系	・薬理学1,2 ・物理薬理学1	・薬理学1,2 ・物理薬理学1	・薬理学1,2 ・物理薬理学1	・薬理学1,2 ・物理薬理学1	・薬理学1,2 ・物理薬理学1	・薬理学1,2 ・物理薬理学1
臨床医療系	・病態・薬物治療学1 ・製剤学	・病態・薬物治療学1 ・製剤学	・病態・薬物治療学1 ・製剤学	・病態・薬物治療学1 ・製剤学	・病態・薬物治療学1 ・製剤学	・病態・薬物治療学1 ・製剤学
実習演習	・生物系実習1,2 ・物理系実習1,2	・生物系実習1,2 ・物理系実習1,2	・生物系実習1,2 ・物理系実習1,2	・生物系実習1,2 ・物理系実習1,2	・生物系実習1,2 ・物理系実習1,2	・生物系実習1,2 ・物理系実習1,2
専門関連	・体育実技					
自由科目	・体育実技					

漢方薬学科

Department of Kampo Pharmacy

長い歴史に裏付けられた知恵と技が
最先端の科学と融合。
漢方をコアに東洋医療に精通した
薬剤師を目指す漢方薬学科。

P13

臨床薬学科

Department of Clinical Pharmacy

薬の専門家としてチーム医療を支え、
一人ひとりの患者と向き合いながら
治療をサポートする人材を
育成する臨床薬学科。

P17

健康薬学科

Department of Health Pharmacy

ゲノムサイエンスに基づく薬ももちろん、
食品・運動・環境・感染症にいたるまで、
セルフメディケーションを
幅広く学ぶ健康薬学科。

P21

授業科目	1-2年生	3-5年生	6年生
1	9:00~10:30	1	9:00~10:10
2	10:45~12:15	2	10:20~11:30
3	12:15~13:15	3	11:30~12:30
4	13:15~14:45	4	12:30~13:40
5	15:00~16:30	5	13:50~15:00
6		6	15:10~16:20
7		7	16:30~17:40

薬学部 6年制

就職（薬剤師）

薬剤師として必要な
資質を身につける

薬剤師国家試験





座学講義



プレゼンテーション



SGD (スモール・グループ・ディスカッション)

実習



実務実習に求められる
知識・態度・技能の習得

薬学共用試験

(臨床実習開始前の4年次に学生の知識・技能・態度を評価する全国試験)

CBT

Computer-based testing

コンピュータを用いた知識
についての客観試験



OSCE

Objective structured
clinical examination

臨床能力 (態度・技能)
の評価を行う実技試験



OSCE課題 5 領域から 6 課題

領域	課題項目	実施課題数
1. 患者・来局者対応	・ 薬局での患者対応 ・ 病棟での初回面談 ・ 来局者対応	1課題
2. 薬剤の調製	・ 計量調剤（散剤） ・ 計量調剤（水剤） ・ 計量調剤（軟膏剤） ・ 計数調剤	2課題
3. 調剤鑑査	・ 調剤薬鑑査	1課題
4. 無菌操作の実践	・ 手洗いと手袋の着脱 ・ 注射剤混合	1課題
5. 情報の提供	・ 薬局での薬剤交付 ・ 病棟での服薬指導 ・ 一般医薬品の情報提供 ・ 疑義照会	1課題



白衣授与式



薬科大学入学



入学から薬剤師免許取得までの流れ

薬学共用試験(CBT, OSCE)(4年終了時)



5ヶ月間(2.5ヶ月病院・2.5ヶ月薬局)の実務実習(5年次)



**卒業研究
(5,6年)**

**卒業試験
(6年)**



国家試験合格

☆薬剤師☆

薬学実務実習の在り方・目標

参加・体験型の臨床実習の充実

- 実務実習では、**実践的な臨床対応能力を身につける参加・体験型学習**を行う。

〔 **集合研修や講義で教えられることは大学で、医療現場でしか学べない内容**を実習で体験しながら身につける。 〕

- 臨床現場で幅広く事例や症例を体験して、薬剤師業務の意義・役割を理解する。

病院・薬局が連携した一貫性のある実習

- ・ 大学が主導的役割を果たし、病院・薬局間で重複する目標の指導を分担し、**一貫性のある学習効果**の高い実習を行う。

実務教育（実習）

1. 薬剤学実習Ⅰ

（3年前期）

製剤（軟膏・坐薬）
品質試験
注射薬調剤
手洗い・手袋の脱着



2. 薬剤学実習Ⅱ

（3年後期）

調剤・医療面接（14課題）



3. 薬剤学実習Ⅲ

（4年前期）

薬物動態・TDM（**Therapeutic Drug Monitoring**）
医薬品情報収集



4. 実務実習事前学習（4年前期・後期）

病院、薬局の薬剤師業務を理解する

対 象

4年生

時 期

3期に分けて実施

前期（4～7月）、後期（9～10月）、総合演習（12～1月）

時間数

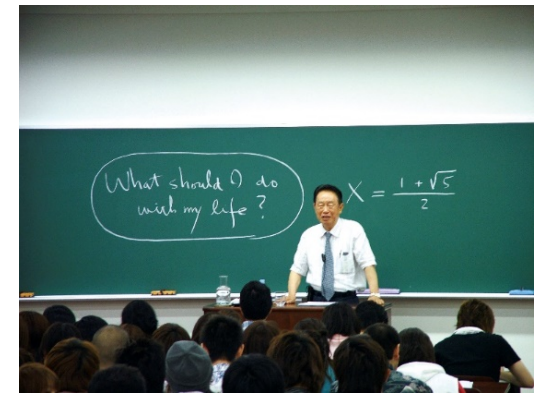
268.5時間（10単位）で実施

内 容

Programは講義、実習、演習（SGDを含む）から成る。学生は病院・薬局実務実習に先立って、大学で調剤、製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を習得する。

講義

88.5時間



1. 薬剤師業務
2. 実務実習に対する心構え
3. チーム医療
4. 専門薬剤師
5. 医薬分業
6. 処方せんの基礎
7. 医薬品の用法・用量
8. 服薬指導の基礎
9. 調剤室業務入門
10. 疑義照会
11. 医薬品の管理と供給
12. 製剤化の基礎
13. 注射剤と輸液
14. 消毒薬
15. 安全管理
16. 副作用
17. Risk-management入門
18. 服薬指導と患者情報
19. 医薬品情報
20. 薬剤管理指導記録・薬歴簿記載
21. 臨床検査値



実習

97.5時間

- 散剤・液剤・注射剤の配合変化 (7.5時間)
- 計数・計量調剤 (30時間)
- 情報提供 (12時間)
- 無菌操作・抗癌剤 (3時間)
- T D M (Therapeutic Drug Monitoring) (15時間)
- 総合実習 (30時間)

スキルアップのため
2～3回繰り返す



講義形式の受身型 ⇒ 参加型演習

演習

82.5時間

個人演習

18時間

- 栄養輸液・電解質/Energy補正 (4.5時間)
- 副作用の初期症状と検査所見 (3時間)
- Risk management (3時間)
- 不適切な処方せん (1.5時間)
- POS, SOAP (6時間)

SGD演習

64.5時間

- 導入・Group dynamics (3時間)
- Pharmaceutical care (4.5時間)
- Self-Medication (3時間)
- 守秘義務・医療倫理 (3時間)
- チーム医療 (7.5時間)
- 処方せん鑑査 (4.5時間)
- 疑義照会等 (9時間)
- 服薬指導 (9時間)
- 中毒症例 (3時間)
- 症例検討：生活習慣病 (18時間)



本日の内容

- ① 最近の薬学教育の動向
- ② 受入れ施設決定の流れ
- ③ 新旧コアカリキュラムの比較
- ④ 新しい評価方法
- ⑤ 受入れ薬局アンケート結果
- ⑥ 学生アンケート結果
- ⑦ トラブル他



関東地区の6年制薬科大学・薬学部の定員数

都県	大学名	6年制定員	都県	大学名	6年制定員
栃木	国際医療福祉	180	東京 (2513)	東京	8
群馬	高崎健康福祉	90		東京薬科	420
埼玉 (510)	城西	250		明治薬科	300
	日本薬科	260		昭和	200
千葉 (850)	千葉	50		昭和薬科	240
	東邦	220		星薬科	260
	東京理科	100		慶応義塾	150
	日本	244		北里	260
	千葉科学	120		武蔵野	160
	城西国際	130		帝京	320
				帝京平成	240
新潟	新潟薬科	180	神奈川	横浜薬科	340

合計 23校 4722名(2020年度)

2021年度割振り日程(薬局)

回	大学へ リスト提示	エントリー 締切	エリアに薬局 調整依頼	エリアからの 回答期間
第1回	2~3月受入れ調査 5/8(金)	5/29 (金)	神奈川県は受入人数 100名減少	7/28 (火)
第2回	6/8 (月)	6/22 (月)		8/18 (火)
第3回	6/26 (金)	7/8 (水)		

詳細は割振り調整スケジュールをご覧ください

～ 学生の希望エリア・施設 ～

実習希望薬局 エリアコード		エリアコード	薬局1	薬局2	薬局3		エリア	薬局1	薬局2	薬局3
	1	14-A16J	14-A016-003	14-A016-007	14-A016-004	薬局エリアコード表参照	栄(JPA)	桂町薬局	さかえ薬局	ユキ調剤薬局
	2	14-A11J	14-A011-003	14-A011-004	14-A011-006		港北(JPA)	菊名ふじ薬局	坂本調剤薬局	有限会社すみれ薬局
	3	14-A02J	14-A002-016	14-A002-017	14-A002-018		神奈川(JPA)	陽月堂薬局	ツルヤ薬局	しんわ薬局子安店
	4	14-A03J	14-A003-002	14-A003-004	14-A003-005	希望エリアを希望順に 10個挙げてください。	西(JPA)	株式会社製本薬局横浜西口店	加藤回生堂薬局みなとみらい店	薬師トモスアインススクエア横浜店
	5	14-A06J	14-A006-001	14-A006-004	14-A006-007		港南(JPA)	玄和堂薬局	ツジ薬局	港南台大江薬局
	6	14-A08J	14-A008-001	14-A008-002	14-A008-003		旭(JPA)	明日花薬局	あゆみ薬局	カワセ薬局本店
	7	14-A12J	14-A012-001	14-A012-002	14-A012-003		緑(JPA)	さなえ薬局中山店	えがお薬局	望星横浜みどり薬局
	8	14-A13J	14-A013-001	14-A013-003	14-A013-004		青葉(JPA)	飯田薬局にまプラーザ店	藤ファーマシー	若葉調剤薬局
	9	14-A15J	14-A015-008	14-A015-009	14-A015-014		戸塚(JPA)	仁天堂薬局本店	平安薬局	なの花薬局東戸塚店
	10	14-A17J	14-A017-003	14-A017-004	14-A017-008		泉(JPA)	クリエイトエスディー立場店薬局	薬樹薬局いずみ中央2号店	あすか薬局西が岡店

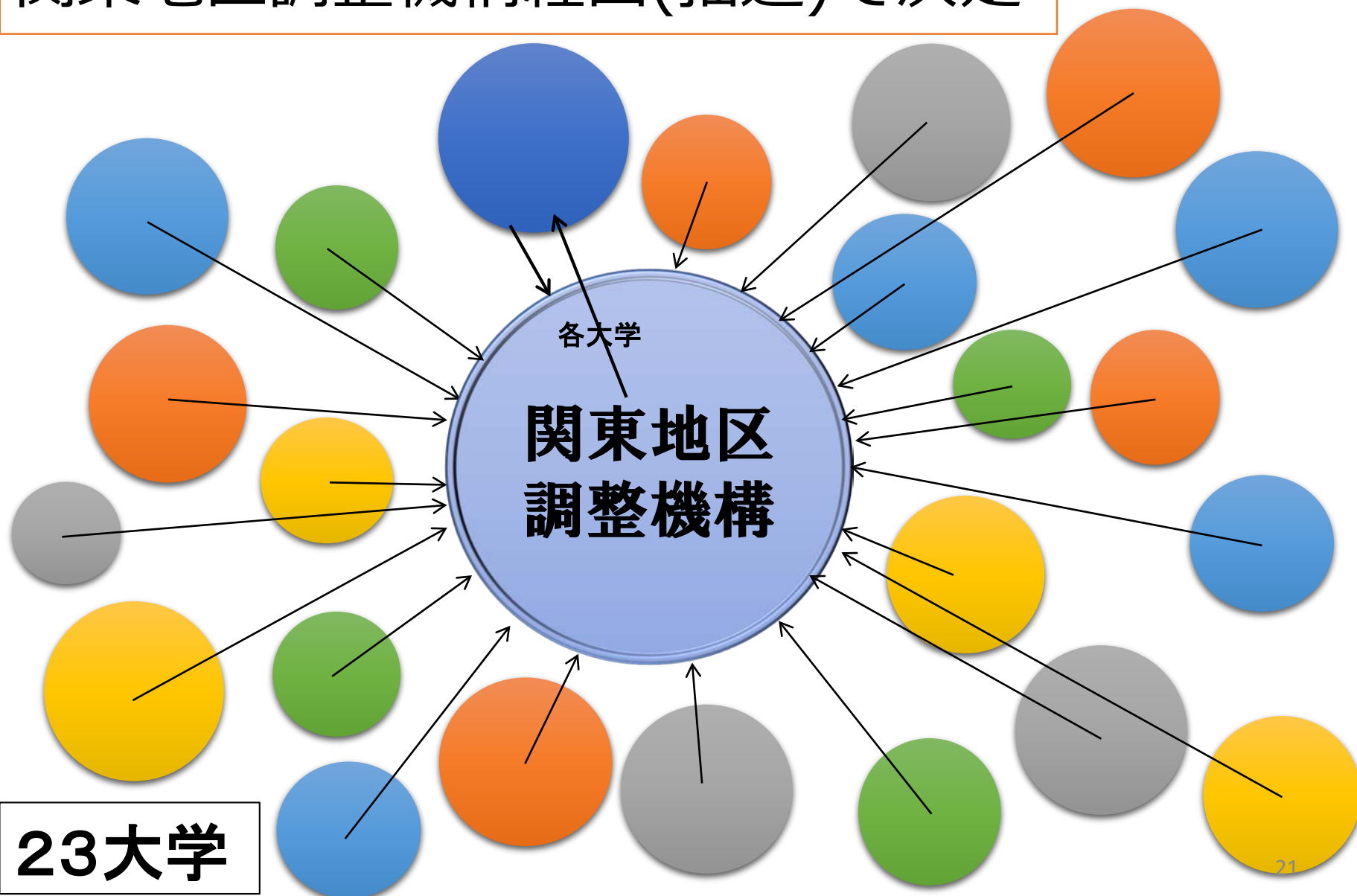
1	エリアコード	エリア名	I 期	II 期	III 期	都県名	市区町村名						
67	13-A35J	調布(JPA)	7	8	6	東京都	調布市※13-A27(B) 京王エリアより移行						
68	14-A01J	鶴見(JPA)	9	8	1	神奈川県	横浜市鶴見区						
69	14-A02J	神奈川(JP)	9	9	10	神奈川県	横浜市神奈川区	神奈川県	戸塚(JPA)	14-A015-023	まめの木 薬局		
70	14-A03J	西(JPA)	2	2	3	神奈川県	横浜市西区	神奈川県	戸塚(JPA)	14-A015-024	みらい薬局下倉田店		
71	14-A04J	中(JPA)	18	18	14	神奈川県	横浜市中区	神奈川県	栄(JPA)	14-A016-002	シーガル調剤薬局本郷店		
72	14-A05J	南(JPA)	5	6	3	神奈川県	横浜市南区	神奈川県	栄(JPA)	14-A016-003	桂町薬局		
73	14-A06J	港南(JPA)	4	7	3	神奈川県	横浜市港南区	神奈川県	栄(JPA)	14-A016-004	ユキ調剤薬局		
74	14-A07J	保土ヶ谷(JP)	6	6	6	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	神奈川県	栄(JPA)	14-A016-006	かいがら坂薬局		
75	14-A08J	旭(JPA)	7	4	1	神奈川県	横浜市旭区	神奈川県	栄(JPA)	14-A016-007	さかえ薬局		
76	14-A09J	磯子(JPA)	3	2	2	神奈川県	横浜市磯子区	神奈川県	泉(JPA)	14-A017-002	あおぞら薬局		
77	14-A10J	金沢(JPA)	6	3	5	神奈川県	横浜市金沢区	神奈川県	泉(JPA)	14-A017-003	クリエイトエスディー立場店薬局		
78	14-A11J	港北(JPA)	11	10	5	神奈川県	横浜市港北区	神奈川県	泉(NPhA)	14-A017-004	薬樹薬局いずみ中央2号店		
79	14-A12J	緑(JPA)	6	4	2	神奈川県	横浜市緑区						
80	14-A13J	青葉(JPA)	12	14	8	神奈川県	横浜市青葉区						
81	14-A14J	都筑(JPA)	11	10	0	神奈川県	横浜市都筑区						
82	14-A15J	戸塚(JPA)	11	11	11	神奈川県	横浜市戸塚区						
83	14-A16J	栄(JPA)	2	2	1	神奈川県	横浜市栄区						
84	14-A17J	泉(JPA)	5	3	5	神奈川県	横浜市泉区						
85	14-A18J	瀬谷(JPA)	1	1	1	神奈川県	横浜市瀬谷区						
86	14-A19J	川崎(JPA)	7	7	7	神奈川県	川崎市川崎区						
87	14-A20J	幸(JPA)	5	5	5	神奈川県	川崎市幸区						

記入例
病院コード表
薬局エリアコード表
薬局コード

2. 実習先決定までの流れ(薬局)

学生1人第3希望まで
(エリア、施設)

関東地区調整機構経由(抽選)で決定



6年制薬局実習の受入薬局に対する基本的な考え方

1. 薬局実習について

一薬局完結型を基本とする。

2. 受入薬局について

受入薬局は、以下の体制を備えた薬局であること。

① **関係法令を遵守し、適切に業務を実施していること**

② 受入薬局は、「**薬学実務実習に関するガイドライン(36P)**」に基づく実習環境が整備されていること

③ 複数の薬剤師が勤務する場合、当該薬局の認定実務実習指導薬剤師を中心として、**勤務する全ての薬剤師が協力して実習を行う体制を確保していること**

④ 開設者が実習全体の責任を持ち、認定指導薬剤師と連携を取り、**適切な実習を行う体制を確保していること**

受入薬局の要件については以下に示す通りとする。

(受入薬局の要件)

ア.実習ガイドラインが求める**地域保健、医療、福祉等**に関する業務を積極的に**行っていること**。

なお「**健康サポート薬局**」の基準と同等の体制を有していることが望ましい。

イ.**「代表的な疾患」**(がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症)に関する**症例を実習できる体制を整備していること**

ウ.**認定指導薬剤師が常勤していること**

エ.**薬剤師賠償責任保険に加入していること**

受入れる学生については、以下のことが事前に確認されていること。(大学)

- ①参加型実務実習を行うために必要な知識・技能・態度が修得されていること
- ・実務実習事前学習をはじめとする学内教育が十分に行われていること
 - ・それらの教育プログラムが薬学教育評価機構の第三者評価、又は自己点検・評価により確認されていること
 - ・薬学共用試験に合格していること

- ②健康診断等を受診していること
- ・健康診断を受診していること
 - ・必要な疫学的検査を実施していること
 - ・必要な予防接種を受けていること

必須：麻疹、風疹、水痘、ムンプス
(流行性耳下腺炎)

施設により必須
B型肝炎、インフルエンザ、QFTなど

- ③傷害保険と損害賠償保険に加入していること

- ④実習継続のために必要な実習生の情報が、所属大学より実習施設の認定指導薬剤師に提示されていること

4. 受入学生数について

実習期ごとの受入学生数は、**1薬局2名**までとする。

5. 学習成果基盤型教育(OBE)に基づく繰り返し実習を行うための**連携体制の整備**について

実習生が幅広い薬剤師業務について繰り返し体験し、コミュニケーション能力や問題解決能力を培う実習体制を確保するために、認定指導薬剤師が必要性を認めた場合、同一地域の薬剤師会の範囲及び規定において連携体制を構築する。

なお、連携する場合は以下①～③を満たすこと。

①当該地域の**薬剤師会の主導**で構築された連携体制の範囲での**連携**とすること

②連携する薬局(以下、「**連携薬局**」という。)での指導は、**連携薬局の指導薬剤師が行い**、当該指導薬剤師は**受入薬局の認定指導薬剤師**に対し、実習の**進捗状況を報告**すること

※連携薬局は、2の「**受入薬局の要件**」を満たすことが望ましい。

③**連携薬局における実習は**、受入薬局の認定指導薬剤師の責任で行うこと
また、**連携薬局に協力依頼できる実習内容**(方略を含む。)は以下に関するものとする。

- ・**在宅医療**に関する参加型実習
- ・**薬局製剤**に関するもの
- ・**無菌調剤**に関するもの
- ・**学校薬剤師業務**に関するもの

6. 地域が主体となって受入体制を整備する実習について
地域活動を体験する実習については、当該地域が主体となって実習体制を整備する。当該地域が主体となって行う実習内容(方略を含む。)は、概ね以下に示す項目とする。

- ・**救急医療**(休日・夜間における医薬品供給等)に対応した活動に関するもの
- ・**災害時における医療救護活動**に関するもの
- ・**薬と健康の週間等地域の保健・医療に関する事業や活動**に関するもの
- ・**麻薬、覚せい剤や危険ドラッグ等の薬物乱用防止活動**に関するもの



本日の内容

- ①最近の薬学教育の動向、薬学生の特徴
- ②受入れ施設決定の流れ
- ③新旧コアカリキュラムの比較
- ④新しい評価方法
- ⑤受入れ薬局アンケート結果
- ⑥学生アンケート結果
- ⑦トラブル他

改訂コアカリに基づく薬学実務実習

事前学習・病院実務実習・薬局実務実習の統合

**「体験・参加型の一貫性のある
効果的な臨床実習を行う」**

実務実習では
大学で修得した臨床の基本的な知識・技能・態度を確認し
病院・薬局が連携し、継続した薬物療法の体験や
チーム医療や地域医療への参加を通して
実践的な臨床能力修得を目指す。

日本の改訂薬学教育Model core curriculumの概要

2006年に日本の薬学教育は薬学臨床教育を充実させるために4年制課程から6年制課程に変更された。

6年制教育への時代のNeedsに合わせて

2015年4月に薬学部に入学者から、改訂Model core curriculum（新curriculum）に基づく新たな薬学教育が開始された。

新たな薬学教育は、
薬剤師に求められる**10の基本的資質**を設定し、
学習領域を**7つの大項目**に整理した。

改定curriculumの大きな特徴は薬学臨床領域において、
基礎薬学教育と実務実習（臨床実習）のcurriculumを一本化したことで
ある。

薬剤師として求められる10の基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

6年卒業時に必要なとされている資質は以下の通りである。

（薬剤師としての心構え）

医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感・責任感及び倫理観を有する。

（患者・生活者本位の視点）

患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

（コミュニケーション能力）

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

（チーム医療への参画）

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

（基礎的な科学力）

生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

（薬物療法における実践的能力）

薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

（地域の保健・医療における実践的能力）

地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

（研究能力）

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

（自己研鑽）

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

（教育能力）

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの構成

【従来薬学教育モデル・コアカリキュラム】

- A 全学年を通して**
：ヒューマニズムについて学ぶ
- B イントロダクション**
- C 薬学専門教育（C1-C18）**

【従来実務実習モデル・コアカリキュラム】

- I 実務実習事前学習**
- II 病院実務実習**
- III 薬局実務実習**

【改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム】

- A. 基本事項**
- B. 薬学と社会**
- C. 薬学基礎**
- D. 衛生薬学**
- E. 医療薬学**
- F. 薬学臨床（実務実習）**
- G. 薬学研究**

「基本的な資質」を身につけるための
7つの学習領域

実践力を養う順次性のあるカリキュラム

薬剤師として求められる10の基本的な資質

6年

G薬学研究

5年

F「実務実習」

4年

F薬学臨床

3年

E医療薬学

2年

D衛生薬学

1年

C基礎薬学

A基本事項・B薬学と社会

「F 薬学臨床」改定のPoint

薬学教育と実務実習のCurriculum一本化
事前学習と病院実務実習と薬局実務実習の統合

従来SBO数

実務実習事前学習 (SBO 77)

病院実習 (SBO 108)

薬局実習 (SBO 116)



改訂SBO数

SBO 176

学生は実務実習において大学で修得した臨床の基本的な知識・技能・態度を確認する。大学、病院、薬局は連携し、薬物療法の体験やチーム医療や地域医療へ参加させる。そして参加・体験型の一貫性のある臨床実習を行うことを目指す。

従来モデル・コアカリキュラム 実務実習

I. 実務実習事前学習

- ① 事前学習を始めるにあたって
- ② 処方せんと調剤 ③ 疑義照会 ④ 医薬品の管理と供給
- ⑤ リスクマネジメント ⑥ 服薬指導と患者情報
- ⑦ 事前学習のまとめ

II. 病院実習

- ① 病院調剤を実践する ② 医薬品を動かす・確保する
- ③ 情報を正しく使う ④ ベッドサイドで学ぶ
- ⑤ 薬剤を造る・調べる ⑥ 医療人としての薬剤師

III. 薬局実習

- ① 薬局アイテムと管理 ② 情報のアクセスと活用
- ③ 薬局調剤を実践する ④ 薬局カウンターで学ぶ
- ⑤ 地域で活躍する薬剤師 ⑥ 薬局業務を総合的に学ぶ



改訂モデル・コアカリキュラム F 薬学臨床(実務実習)

(1) 薬学臨床の基礎

- ① 早期臨床体験 ② 臨床における心構え
- ③ 臨床実習の基礎

(2) 処方せんに基づく調剤

- ① 法令・規則等の理解と遵守 ② 処方せんと疑義照会
- ③ 処方せんに基づく医薬品の調製
- ④ 患者・来局者対応、服薬指導、患者教育
- ⑤ 医薬品の供給と管理 ⑥ 安全管理

(3) 薬物療法の実践

- ① 患者情報の把握 ② 医薬品情報の収集と活用
- ③ 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）
- ④ 処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）

(4) チーム医療への貢献

- ① 医療機関におけるチーム医療
- ② 地域におけるチーム医療

(5) 地域の保健・医療・福祉への 参画

- ① 在宅医療・介護への参画 ② 地域保健への参画
- ③ プライマリケア、セルフメディケーションの実践
- ④ 災害時医療と薬剤師

改訂モデル・コアカリキュラム：F 薬学臨床

概略評価（ループバック評価）

（１）薬学臨床の基礎

- ① 早期臨床体験
- ② 臨床における心構え
- ③ 臨床実習の基礎

（２）処方せんに基づく調剤

- ① 法令・規則等の理解と遵守
- ② 処方せんと疑義照会
- ③ 処方せんに基づく医薬品の調製
- ④ 患者・来局者対応、服薬指導、患者教育
- ⑤ 医薬品の供給と管理
- ⑥ 安全管理

（３）薬物療法の実践

- ① 患者情報の把握
- ② 医薬品情報の収集と活用
- ③ 処方設計と薬物療法の実践
（処方設計と提案）
- ④ 処方設計と薬物療法の実践
（薬物療法における効果と副作用の評価）

（４）チーム医療への貢献

- ① 医療機関におけるチーム医療
- ② 地域におけるチーム医療

（５）地域の保健・医療・福祉への参画

- ① 在宅医療・介護への参画
- ② 地域保健への参画
- ③ プライマリケア、セルフメディケーションの実践
- ④ 災害時医療と薬剤師

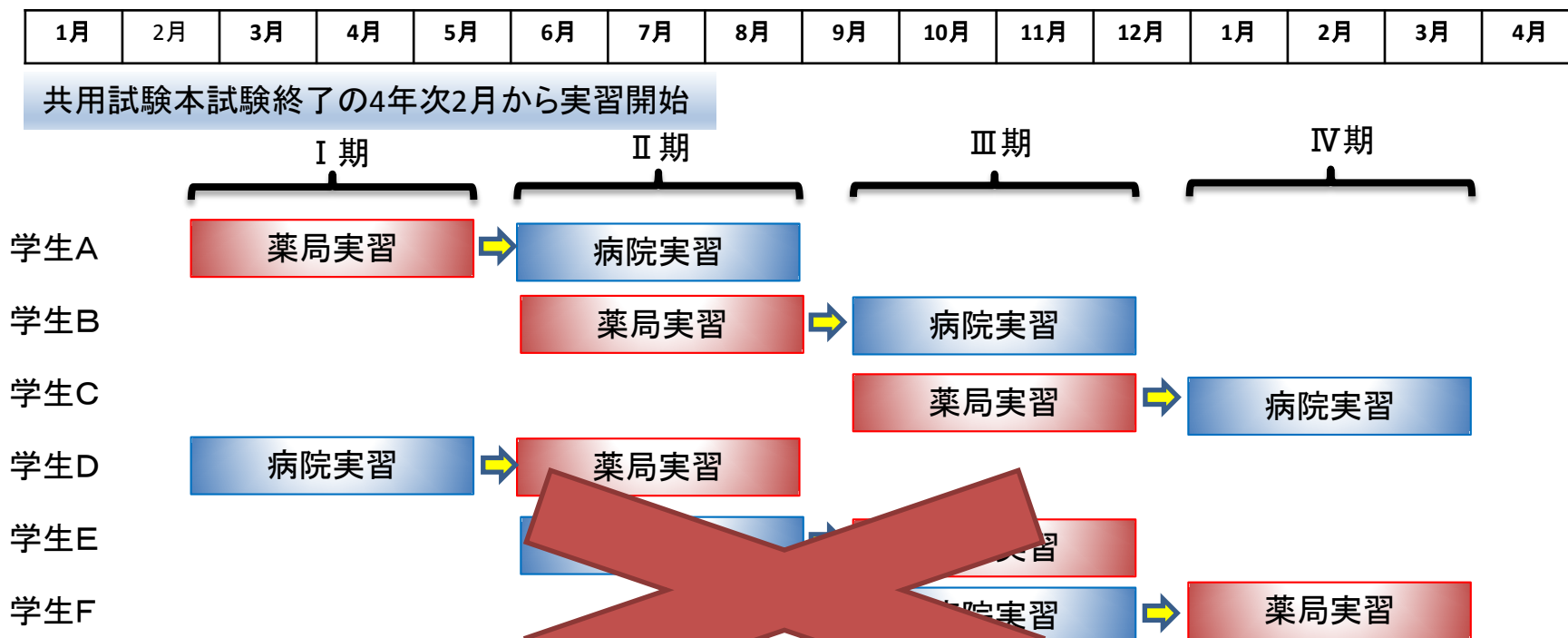
実務実習記録（日誌・レポート）による評価

【（１）薬学臨床の基礎】、【（２）処方せんに基づく調剤】、【（３）薬物療法の実践】のより実践的な応用となる実習

薬学実務実習に関するGuide Lineより

連続した22週間の実習を年間3回実施する実習期間

実習のパターン



I ~ IV期のそれぞれの実習期間は、全国同じとする。
各実習施設は、原則として最大3つの期までEntryが可能。

多くの症例を体験するため・実務実習の標準化のために代表的な8疾患を学ぶ。

- ① 癌
- ② 高血圧
- ③ 糖尿病
- ④ 心疾患
- ⑤ 脳血管障害
- ⑥ 精神疾患
- ⑦ 免疫・Allergy疾患
- ⑧ 感染症



「代表的な疾患」について、実習生が体験した疾患の学習内容を日誌に簡潔に記録することで、指導者と振り返りを行い、実習施設で各疾患についてどのように学習が進んだか確認できるようにする。病院・薬局の実務実習において、これら疾患を持つ患者の薬物治療に継続的に広く関わること。

代表的疾患について、それに含まれる疾病の一例

代表的疾患に用いられる薬剤を使用する患者の
薬学的管理(情報収集・提供、処方解析、効果・副作用のモニタリング等)の参加・体験実習

- ① **がん**：各種がんの治療薬あるいは治療薬の副作用対策の治療薬を含む
- ② **高血圧症**
- ③ **糖尿病**
- ② **心疾患**：狭心症、心筋梗塞、不整脈、心不全など
- ③ **脳血管障害**：脳出血、脳梗塞、一過性脳虚血など
- ④ **精神神経疾患**：睡眠障害、統合失調症、うつ病、神経症・心身症、パーキンソン病、
認知症、頭痛、てんかん、重症筋無力症など
- ⑤ **免疫・アレルギー疾患**：全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、強皮症、シェーグレン、
ベーチェット、後天性免疫不全症候群、乾癬、気管支喘息、鼻アレルギー(アレルギー
性鼻炎・花粉症を含む)、皮膚アレルギー(アトピー性皮膚炎・蕁麻疹を含む)など
- ⑥ **感染症**：かぜ症候群・急性気管支炎、インフルエンザ、感染性結膜炎、中耳炎、扁桃炎
、副鼻腔炎、虫垂炎、尿路感染症、皮膚真菌症、細菌性食中毒、急性胆管炎・胆嚢
炎、肺結核、肺真菌症、髄膜炎など

Outcome-based Education

アウトカム:

薬剤師として求められる基本的な資質の修得

アドバンスト教育・卒業研究

プロダクト重視

- 測定可能な最終達成像を設定
- 学生が何を習得したか、どれだけ目標達成したかに注目
- 学生の発達・成長(パフォーマンス)を評価

初年次
教育

入学

本日の内容

- ①最近の薬学教育の動向、薬学生の特徴
- ②受入れ施設決定の流れ
- ③新旧コアカリキュラムの比較
- ④新しい評価方法
- ⑤受入れ薬局アンケート結果
- ⑥学生アンケート結果
- ⑦トラブル他



F 薬学臨床

代表的な疾患：①がん、②高血圧症、③糖尿病、④心疾患、⑤脳血管障害、
⑥精神神経疾患、⑦免疫・アレルギー疾患、⑧感染症

病院・薬局の実務実習においては、これら疾患を持つ患者の薬物治療に継続的に広く関わること。

GIO 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

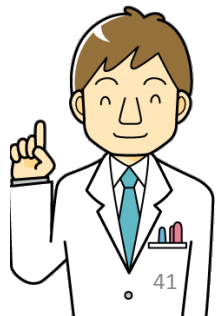
(1) 薬学臨床の基礎

GIO 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

【①早期臨床体験】⇒1年次に実施済み

【②臨床における心構え】

【③臨床実習の基礎】



(2) 処方せんに基づく調剤

GIO 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

- 【①法令・規則等の理解と遵守】
- 【②処方せんと疑義照会】
- 【③処方せんに基づく医薬品の調製】
- 【④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】
- 【⑤医薬品の供給と管理】
- 【⑥安全管理】



(3) 薬物療法の実践

GIO 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、**個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力**を修得する。

- 【①患者情報の把握】
- 【②医薬品情報の収集と活用】
- 【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】
- 【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】

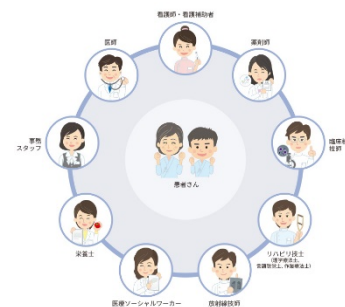


(4) チーム医療への参画

GIO 医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、**より良い医療の検討、提案と実施**ができる。

【①医療機関におけるチーム医療】

【②地域におけるチーム医療】



(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

GIO 地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、**地域住民の健康の回復、維持、向上に関わる**ことができる。

【①在宅(訪問)医療・介護への参画】

【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】

【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】

【④災害時医療と薬剤師】



改訂モデル・コアカリキュラム(F:薬学臨床)の構成とその評価

改訂モデル・コアカリキュラム F:薬学臨床

- (1) 薬学臨床の基礎
- (2) 処方せんに基づく調剤
- (3) 薬物療法の実践

【患者情報の把握】【医薬品情報の収集と活用】

【処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】

【処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】

概略評価
(ルーブリック
を意識)

- (4) チーム医療への参画

【医療機関におけるチーム医療】【地域におけるチーム医療】

- (5) 地域の保健・医療・福祉への参画

【在宅医療・介護への参画】【地域保健への参画】

【プライマリケア、セルフメディケーションの実践】

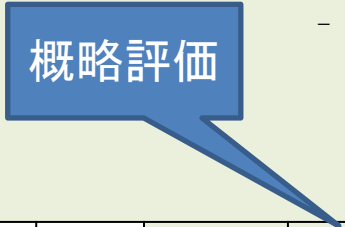
【災害時医療と薬剤師】

実務実習記録
による評価
(ポートフォリオ
を意識)

(3)薬物療法の実践

GIO 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

【①患者情報の把握】

		実施内容(例示)				概略評価表(例示)					
		大学 薬局 病棟	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SBOs986	1 前)基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	◎									
SBOs987	前)患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [E3 (2) ①参照]	◎		・「代表的な疾患」の事例に基づき、患者情報の情報源から、薬物療法の評価に必要な情報を収集する。 ・上記の事例を組み込んだシミュレーターもしくはシミュレーション教材を利用し、身体所見の観察とフィジカルアセスメントを行う。							
SBOs988	前)身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	◎		・上記事例から得られた身体所見と患者情報源から得られた情報から、患者の現在の状況を評価する。							
SBOs989	前)基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)	◎									
SBOs990	5 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)	△	◎		・施設内で汎用される医療用語や略語を確認・理解する。		患者情報の把握	患者情報を適切に収集・評価・共有し、患者状態を正確に把握して、薬物療法に活かす。	把握した患者情報を、患者の環境、状態、必要性に応じて、医薬品の効果や副作用のモニタリングに活用し、継続的に収集・整理・把握し、薬物療法の評価に活かす。	他職種との情報共有の機会(回診、カンファランスなど)に積極的に参加し、情報の発信と共有により、患者情報の精度を高め、より多面的かつ正確に患者状態を把握する。	既存の患者情報から、必要性を的確に判断して、自ら医療面談や身体所見を得るための観察・測定等を実施し、全ての患者情報を収集・評価し、患者の状態を把握する。
SBOs991	6 患者・薬局および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)	◎	◎		・処方せん調剤、在宅医療、一般用医薬品販売などにおいて患者や薬局個々の情報を的確に収集・整理し、薬物療法全般に活かす体験をする。 ・問診や得られる検査値等から患者の状態を把握し適切な薬物的管理を考察する。 ＜SBO952～958と連携＞	・調剤、医薬品管理、病棟業務などにおいて医療に必要な情報を的確に収集し、薬学的管理、薬物治療に活用する。 ・病棟業務の一環として、診療録や病棟カンファランス等を通じた医療スタッフとの情報共有から適切な患者情報の収集を体験する。 ・診療情報や患者の訴えを、副作用や薬効と関連づけて考察する。 ＜SBO952～958と連携＞	8				
SBOs992	患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)	○	◎								

【②医薬品情報の収集と活用】〔E3(1)参照〕

				実施内容(例示)			概略評価表(例示)						
				大学 薬局	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
SB0s993	1	前)薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)	◎	◎	・薬物療法に必要な医薬品情報を収集するための情報源と得られる医薬品情報の特徴を振り返るために、医薬品とその対象疾患を指定し、主な三次資料、二次資料、一次資料を入手し、それぞれの情報源の違いを振り返る。 ・学習した新医薬品について批判的な視点からの紹介文書を作成する。					—			
SB0s994	2	施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)	◎	◎				医薬品情報の収集と評価 ・活用	薬物療法の評価等に必要な情報を収集	調査の目的に合わせて、最も適切な情報源を効果的に活用	調査の目的に合わせて、一次資料(原著論文)も含めた情報源	調査の目的を明確にし、基本的な情報源に加え、複数の情報源	薬物療法の評価等に必要な基本的な情報源である

概略評価(ルーブリック)の効果的な活用 手順例

1. 学生に大まかな実習評価スケジュールについて説明。
2. スケジュールに沿って学生に体験・学習させる。
3. 「できた点」、「できない点」をルーブリックの記載事項や具体例などを示しながらフィードバックする(PNPで)。
4. 学生がステップアップするために必要な内容を自覚して行動するよう、動機づけをする。

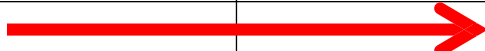
例 ③処方せんに基づく医薬品の調製

観点	アウトカム	4	3	2	1
処方せんに基づく医薬品の調製	監査結果に基づき適正な医薬品調製を実践する。	薬剤師業務の意義を常に認識して、患者の要望や病態等を総合的に考慮した医薬品の調製や供給・管理を、業務の流れを妨げず適切に行う。	患者の病態を考慮した調剤上の工夫を提案し複雑な処方せんの計数・計量調剤を、何度も同じように(再現性のある)素早く正確に行う	実習施設内で扱うすべての処方せんについてある程度スムーズな流れで計数・計量調剤を行う。	単純な処方せん(※参照)について計数・計量調剤を行う。 ※①処方内容を構成する医薬品の数が2～3種類と少ない処方、 ②1つの疾患に対する処方
2月27日					○
3月7日				○	
3月27日			○		
月 日					

定期的に学生の成長を確認して評価する

5. 学生の成長がみられないことがあっても、「**教えよう**」という気持ちよりも、「**共に学ぶ**」という気持ちで、**方略を変更**することを考慮。
6. **アウトカムに向かって**、学生がいかに行動するかを重要視する。
7. 評価は、学生の**行動全体(パフォーマンス)**を見るよう心掛ける。
8. 最終的に到達した点が、学生の最終評価となる。

②医薬品情報の収集と活用

観点	アウトカム	4	3	2	1
医薬品情報の収集と評価・活用	薬物療法の評価等に必要な情報について、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集すると共に、得た情報及び情報源を批判的に評価し、効果的に活用する。	治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案する。	過去の記録、最新の医薬品情報と患者との面談から収集した情報を基に治療上の問題点を把握する。	文書及び患者からの情報を抽出し服薬指導に必要な情報への加工を実践する。	代表的な疾患の治療薬に関する情報(用法・用量、有効性、安全性、使用上の注意等)の収集と加工を実践する。
3月4日					○
3月18日				○	
3月28日				○	
4月18日			 ○		

I. 概略評価(ルーズブリック評価)

- 指導薬剤師と実習生が、定期的(2～4週間毎を目安)に、概略評価表を基に評価を行い、実習の振り返りを行う。

＜実習生がどの程度、何が成長したかを確認・評価＞

■ 評価: 4段階

- **第1段階**: 大学での学習を確認し、医療現場で指導薬剤師の指導の下、実際に患者・来局者に初めて対応ができる段階(実習開始から2～4週間程度かけて到達するライン)とする。
 - **第2段階**: 患者・来局者にある程度円滑に対応ができる段階。
 - **第3段階**: 薬剤師として医療現場で働くことができる基礎を身に付けた段階(実習中に到達すべき基本目標の段階)。
 - **第4段階**: 薬剤師の目指すべき使命を実現できる段階とする。
- どの段階かという評価だけでなく、同じ段階の中でも成長度合いを継続的、具体的に確認する。

薬学実務実習に関するガイドライン

チェックポイント

項目	観点	チェックポイント(SBOs)
(1)薬学臨床の基礎	②臨床における心構え	生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任 医療の担い手を守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)
	③臨床実習の基礎	病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)
(2)処方せんに基づく調剤	①法令・規則等の理解と遵守	調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。
	②処方せんと疑義照会	処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能) 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能) 薬歴、診療録、患者の状態から処方that妥当であるか判断できる。(知識・技能) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)
	③処方せんに基づく医薬品の調製	主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能) 抗悪性腫瘍薬などの取扱におけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)
	④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育	患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。(態度) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。(知識・態度) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)
	⑤医薬品の供給と管理	医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)
	⑥安全管理	特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)

到達度評価 (ルーブリック評価)

評価項目をクリック

1

標準評価項目	実習生	指導薬剤師
(1)薬学知識の基礎		
■【①薬理における心構え】(A(1)、②参照)	1	2
(2)処方せんに基づく調剤		
■【③処方せんと投薬照合】	未評価	1
■【③処方せんに基づく医薬品の調製】	未評価	2
■【③患者・薬局員向け、服薬指導、患者教育】	未評価	1
■【③医薬品の供給と管理】	未評価	2
■【③安全管理】-1	未評価	未評価
■【③安全管理】-2	未評価	未評価

○ : 実習生の評価
● : 指導薬剤師の評価

2

概略評価 (ルーブリック) を表示

評価日

観点	アブタカム	4	3	2	1
生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任	生命の尊厳と薬剤師の社会的使命を自覚し、倫理的行動をする。医療関係法を遵守して、薬剤師としての責任を自覚する。	患者・生活者に関わり、患者・生活者の利益と安全を最優先して行動する。医療の中で薬剤師に求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。さらなる患者ケアの向上に向けた自己啓発を行う。	患者・生活者の視点に立つ。日常の学びを振り返り確認し、省察する。	生命の尊厳を認識し、他者の人権を尊重する。薬剤師としての義務及び法令を遵守する。患者・生活者のプライバシーを保護する。	薬剤師としての義務及び個人情報保護に關して認識している。
08月15日					○
08月15日				●	●
08月30日				●	●

到達度評価（ルーブリック評価）の確認

1 到達度評価をクリック

2 「病院情報」か「薬局情報」を選択

3 各項目の最終評価を確認

最終評価	
実習生	指導薬剤師
1	2
未評価	1
未評価	2
未評価	1
未評価	2
未評価	未評価
未評価	未評価
未評価	未評価
未評価	未評価
未評価	未評価
未評価	未評価
09月19日	09月19日
未評価	未評価

Ⅱ．実務実習記録(日誌・レポート)による評価

- 実習生は、毎日の日誌に自分がその日学習した内容、体験した事例、修得した能力等を簡潔に記録して指導薬剤師、教員等の指導者に提示する。
- 指導者は、その日誌の報告から実習生の実習の進捗状況を確認するとともに、実習についてフィードバックを行う。
- 実習生は、指導者からのアドバイスを受けて薬剤師として求められる臨床能力の成長を確認する。



(5)地域の保健・医療・福祉への参画【B(4)参照】

GIO 地域での保健・医療・福祉に積極的に関与できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関与することができる。

【①在宅(訪問)医療・介護への参画】

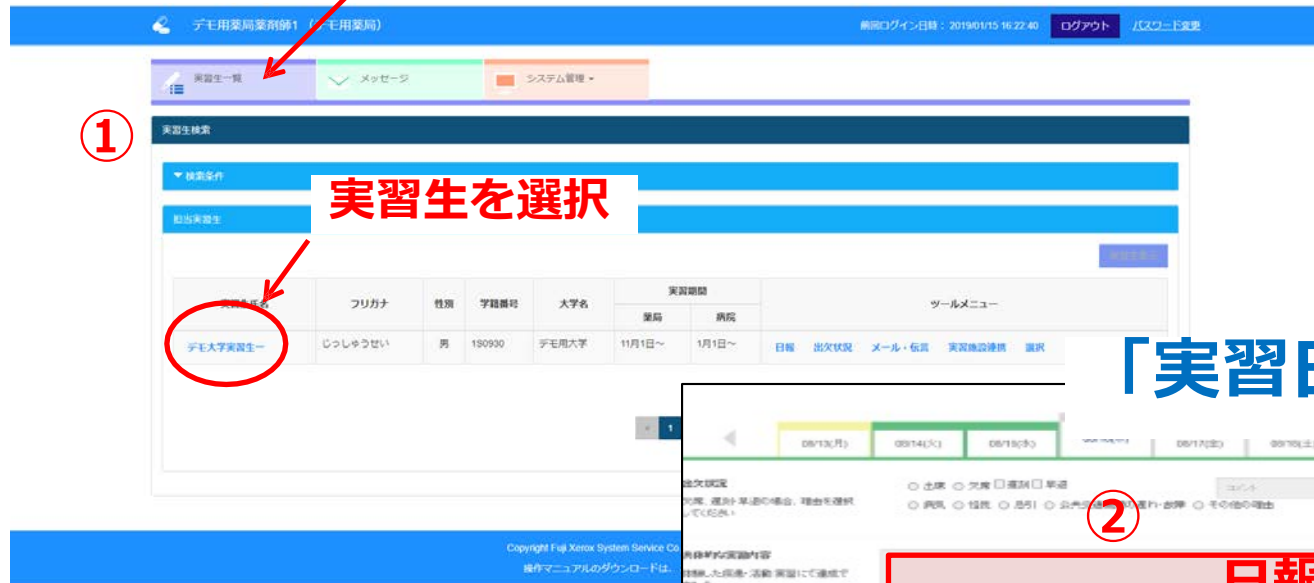
		実施内容(例示)					概略評価表(例示)						
		大 学	薬 局	病 院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階
SBOs103 9	1	◎			・在宅医療における薬剤師の業務事例を 基に、在宅における薬剤師の役割と責任 を								
		◎			議論し、要点を整理する。 ・上記事例を基に、在宅医療や介護を受け る患者の特徴や社会的背景について、議 論する。								
		◎			・在宅医療に従事する薬剤師の事例解説 及び体験、感謝された事例などの講義を 聴く。								
SBOs104 0								実務実習記録による評価					
SBOs104 1													
SBOs104 2	4	◎			＜SBO908、920～924を基本 として、933～943では在宅特 有の 調剤業務を体験。952－9 58を活 用して服薬指導、979～ 983を活 用して安全管理、990～992、99 5～998を活用して情報収集と提 示、1005～1012を活用して薬物 療法の考察と提案を体験する。＞ ・薬局薬剤師による在宅医療、居 宅 介護の支援業務を患者宅、施設等 への訪問も含め継続的に体験す る。 ・在宅に関与する医療、介護スタッ フと情報を共有し、患者をサポート する意義を理解する。 ・医師やケアマネジャーへの報告 や 提案を体験する。								
SBOs104 3		◎											
SBOs104 4		◎											

【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】

		実施内容(例示)					概略評価表(例示)						
		大 学	薬 局	病 院	大学	薬局	病院	観点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階
SBOs104 5	前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。	◎			・薬の週間などにおける地域薬剤師会の取り組みや学校薬剤師のアンチドーピングや薬物乱用防止教育などの活動事例を学び、可能であれば、積極的に参加し、対象者への教育活動を行う。			—					
	前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。	◎			・医療従事者として自分自身の感染予防、パンデミックに対する感染防止対策について論議し要点をまとめる。								

実習日誌（日報）の確認・コメント入力

TOP画面 「実習生一覧」を選択



「実習日誌」の画面



- ① トップ画面から実習生を選択、
- ② 日報を確認、
- ③ 「確認」または「コメント入力」

実習生の日報記載内容

- ① 実習日誌
- ② 登録した日付
- ③ 出欠のチェック、欠席、遅刻・早退・遅刻の場合は、その理由
- ④ 日報の記載内容
- ⑤ 処方解析、投与設計に関わった疾患、服薬指導件数入力(代表的な8疾患への関与)
- ⑥ 実習に関連する能力、実務実習記録による評価項目のチェック
- ⑦ 自己評価：実習にて達成できなかった点の記載

The screenshot shows a web-based interface for a student's daily log. It includes a header with a login/logout section, a navigation bar with tabs like '日報' (Daily Report), and a main content area. The interface is divided into several sections: a date selection area, a section for recording absences and reasons, a section for recording medical cases and prescriptions, a section for recording related abilities, and a section for self-evaluation. Red circles with numbers 1 through 7 are placed over specific elements in the interface to correspond to the list items on the left.

1	2	3	4	5	6	7
実習日誌	登録した日付	出欠のチェック、欠席、遅刻・早退・遅刻の場合は、その理由	日報の記載内容	処方解析、投与設計に関わった疾患、服薬指導件数入力(代表的な8疾患への関与)	実習に関連する能力、実務実習記録による評価項目のチェック	自己評価：実習にて達成できなかった点の記載

2021/02/17	緊急のご連絡	システムメンテナンス完了のお知らせ【2020年2月17日(水)7:00～10:00】
2021/02/17	お知らせ	【重要】2021年2月機能改善マニュアル
2021/02/03	お知らせ	「実習生向けの操作説明動画」について
2021/02/02	お知らせ	2021年度の実習生表示について
2021/02/01	緊急のご連絡	システムメンテナンスのお知らせ【2021年2月17日(水)7:00～13:00(予定)】
2021/01/21	お知らせ	「実習生向けの操作説明動画」について
2021/01/19	お知らせ	「実習生向けの操作説明動画」を公開いたしました
2020/12/25	お知らせ	実習期間の延長【2021年3月31日まで】のご報告
2020/10/27	お知らせ	【重要】2020年10月機能改善マニュアル
2020/10/27	お知らせ	【大学教員向け】CSVファイルの編集について
2020/10/14	ご案内	2020年度システム改修項目のご案内
2020/06/04	お知らせ	【重要 大学教員様向け】実習期間の変更登録作業について④(システム機能改善の検討報告)
2020/05/25	お知らせ	【重要 大学教員様向け】実習期間の変更登録作業について④(今しばらくお待ちください)
2020/01/30	お知らせ	【重要】生年月日の登録について(CSVファイル)
2020/01/06	ご案内	【重要 指導薬剤師様向け】初期登録作業のご案内
2018/12/18	ご案内	スマートフォン用サイトはこちら

大学：学生と施設の紐付け
施設：学生と指導薬剤師の紐付け

ログインID

パスワード

ログイン

[パスワードをお忘れの方](#)[利用規約](#)

実習生の皆様へ

学び応援サイト

薬学のレシピはこちら

よくある質問

FAQはこちら

操作説明動画 マニュアル

■実習生向け動画

①「初回ログイン」操作説明は、[こちら](#)②「実習日誌」操作説明は、[こちら](#)③「一週間振り返り」操作説明は、[こちら](#)④「到達度評価」操作説明は、[こちら](#)⑤「メール・伝言」操作説明は、[こちら](#)⑥「学生プロフィール」操作説明は、[こちら](#)⑦「データ出力」操作説明は、[こちら](#)⑧学び応援サイト「薬学のレシピ」案内は、[こちら](#)

■指導薬剤師様向け動画

①「初回ログイン」操作説明は、[こちら](#)②「新規登録」操作説明は、[こちら](#)③「指導薬剤師様と実習生の紐付」操作説明は、[こちら](#)

実務実習評価の手順

- 実務実習項目(1)・(2)・(3)は概略評価(ルーズブリック)
(4)・(5)は、実務実習記録(日誌・レポートなど)で定期的に測定する。
- 項目(1)・(2)・(3)については、学生がルーズブリックの自己評価をするが、ずれている点や足りない点などを学生にフィードバックして、成長を促す。
- また、項目(4)・(5)は、学生の記載する実務実習記録(日誌・レポートなど)に対して、定期的にコメントやフィードバックする。



改訂モデル・コアカリキュラム対応

薬局実務実習 指導の手引き 2018 年版

公益社団法人日本薬剤師会 編

改訂コアカリの9の小項目と「日薬手引き2018」の4領域の関係【図】

改訂コアカリ 9の小項目

「日薬手引き2018」 4の領域

(2) 処方箋に基づく調剤

②処方せんと疑義照会

③処方せんに基づく医薬品の調製

④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育

⑤医薬品の供給と管理

⑥安全管理

(A) 保険調剤ができる
(医薬品の調製)

手引き P.29-44

(B) 保険調剤ができる
(処方監査・医療安全)

手引き P.45-64

(C) 保険調剤ができる
(服薬指導)

手引き P.65-90

(3) 薬物療法の実践

①患者情報の把握

②医薬品情報の収集と活用

③処方設計と薬物療法の実践
(処方設計と提案)

④処方設計と薬物療法の実践
(薬物療法における効果と副作用の評価)

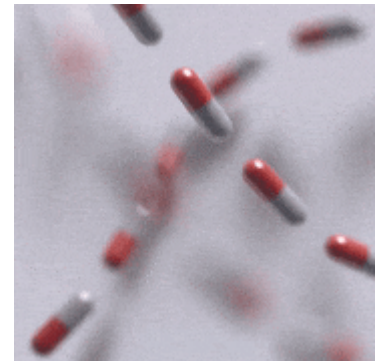
(D) 処方設計と薬物療法
(薬物療法の実践)

手引き P.91-113

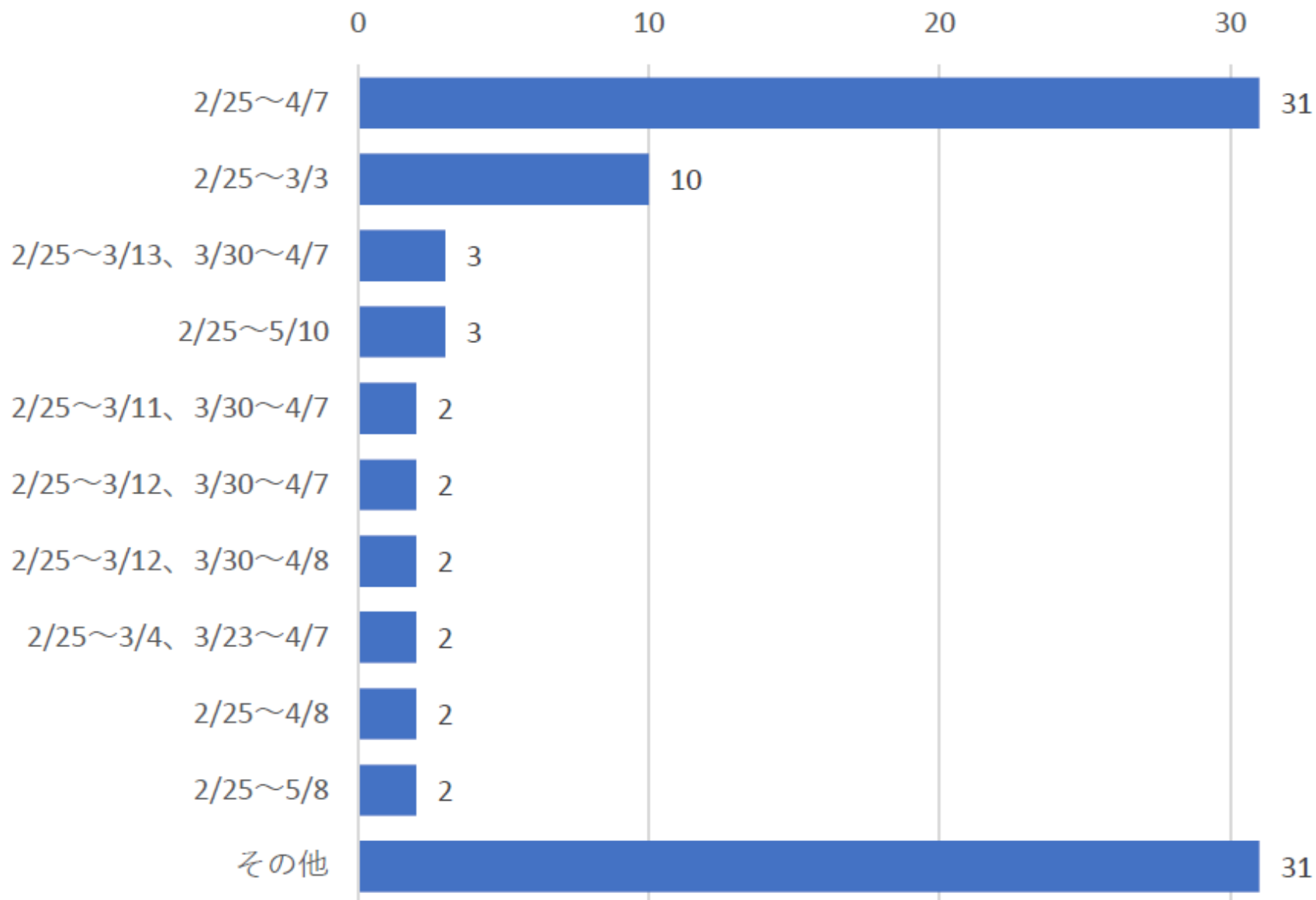
26

本日の内容

- ①最近の薬学教育の動向、薬学生の特徴
- ②受入れ施設決定の流れ
- ③新旧コアカリキュラムの比較
- ④新しい評価方法
- ⑤受入れ薬局アンケート結果
- ⑥学生アンケート結果
- ⑦トラブル他



2020年度 1 期 2月25日～5月10日



※ 実習期間 1 ～ 1 1 週間

アンケート結果

- ・受入大学は神奈川県近隣地区の大学が主で、学生の3割が横浜薬科大学の学生
- ・4/7～5/25 が緊急事態宣言の発令期間
(1期実習期間 2/25～5/10)
- ・第Ⅰ期の実習実施期間は2/25～4/7 が34%。2/25～3/3 が14%
- ・第Ⅱ期の実習実施期間は6/1～8/7 が31%(緊急事態宣言終了1週間後から開始)。5/25～8/7 までが57%と続いた。
(2期実習期間 5/25～8/9)
- ・実習中断または中止期間中に、実習生に課題を出した薬局は、
第Ⅰ期では約9割、第Ⅱ期では約4割近くの薬局であった。
- ・課題の出題元は第Ⅰ期では35%が大学、56%が薬局で、第Ⅱ期では55%が大学、40%が薬局。「その他」には市販のテキストやマニュアルを使用

実習生への課題

第Ⅰ期

- ・患者の疾患ガイドラインについて調べる
- ・関わった処方箋の処方解析を行う
- ・OTC・コロナ感染症・消毒薬等について調べる

第Ⅱ期

- ・書籍を中心とした課題が多かったが、患者の薬歴を元にその患者の背景などを知っている指導薬剤師と話し合った薬局もあった。

実習生の患者対応の際の感染症対策

- ・第Ⅰ期は8割、第Ⅱ期では9割の薬局が対策していると回答
- ・対策例としてはマスク、消毒アルコール、手洗い、ついたて・ビニールシート等や、発熱等の疑いのある患者には対応しないようにしたとの回答が上位となった。
- ・集合研修には参加させない、在宅を控えた、ロールプレイを増やした、患者対応自体を控えた、薬局外実習の見学等を控えた薬局もあった。

コロナ禍の実務実習での工夫

第Ⅰ期は 63%、第Ⅱ期は71%が工夫した。

具体例

感染予防の工夫が多かった。

第Ⅰ期

- ・学生にコロナウイルスについて調べさせ、実際に患者にどのようなアドバイスをすれば良いかなど考えさせた
- ・WHO のHP から注意喚起の内容を読み取りポスターを作成した薬局もあった。

第Ⅱ期

- ・オンラインの外部研修をさせた
- ・オンラインでの報告会を行った
- ・実習時間をずらして時差出勤させたなどの回答があった。

その他の例

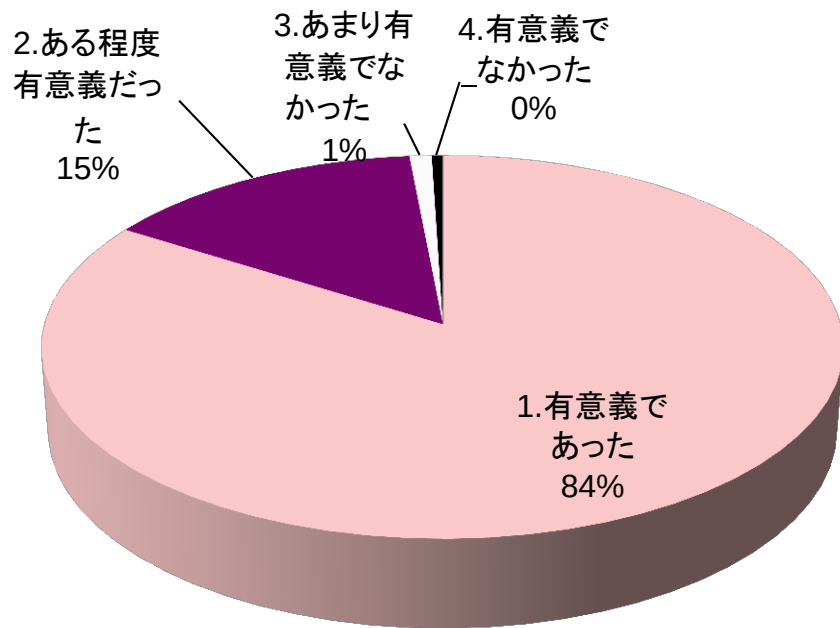
- ・感染対策について地域住民からの相談に応需しているところを見せ、薬剤師の任務、社会的責任について具体例として説明した。
- ・0410 対応処方箋などコロナ禍でしか見られないものについて積極的に見てもらった。
- ・実習生本人が患者対応する中で感染に対して不安が強くなっていないかなど定期的に確認した。実習生の家族を含めて実習への不安感が強い人がいないか確認した。
- ・テレビ等で流れている情報がエビデンスに基づくものなのかどうか、情報源が何か科学の目から正しい情報を患者に伝えることも薬剤師の役割であることを体験させたなどの薬局もあった。

本日の内容

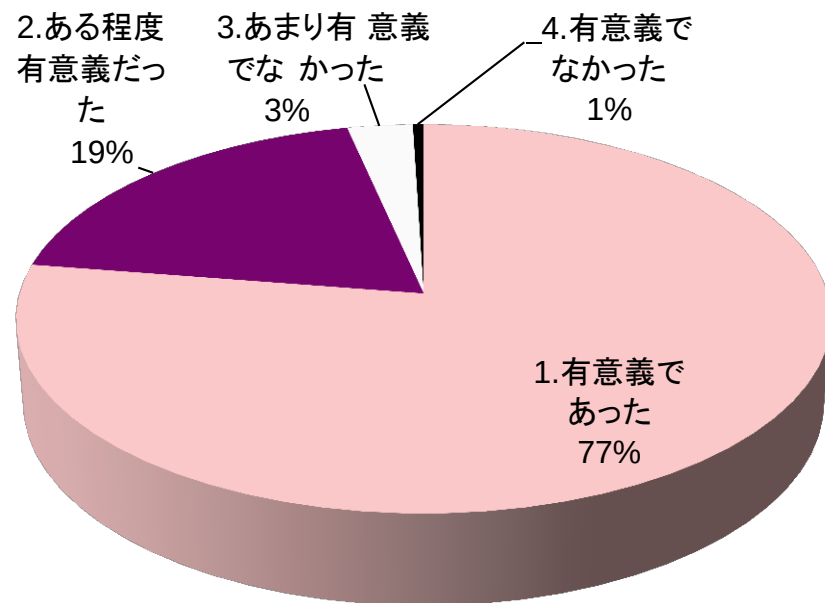
- ①最近の薬学教育の動向、薬学生の特徴
- ②受入れ施設決定の流れ
- ③新旧コアカリキュラムの比較
- ④新しい評価方法
- ④昨年度の新コアカリキュラム実習を終えて
見えてきた問題点(アンケート結果より)
- ⑤学生アンケート結果
- ⑥トラブル他

実務実習終了後 学生アンケート結果

Q.実務実習は、あなたにとって有意義でしたか？



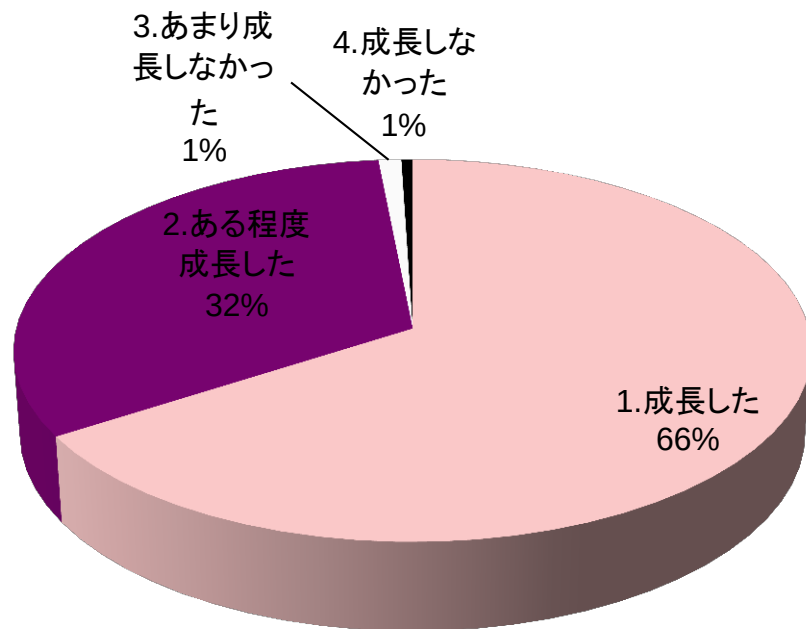
病院実習



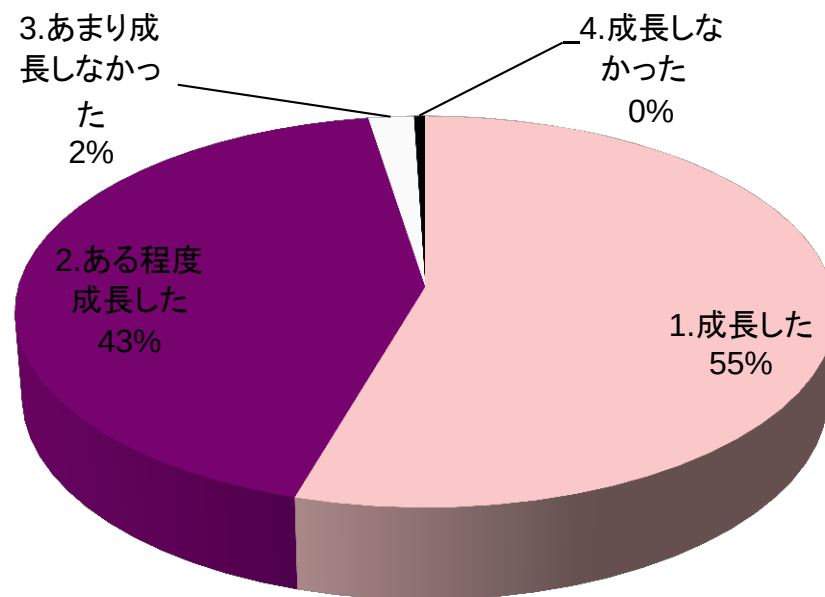
薬局実習

実務実習終了後 学生アンケート結果

Q.実務実習を終えて、自分は成長したと思いますか？



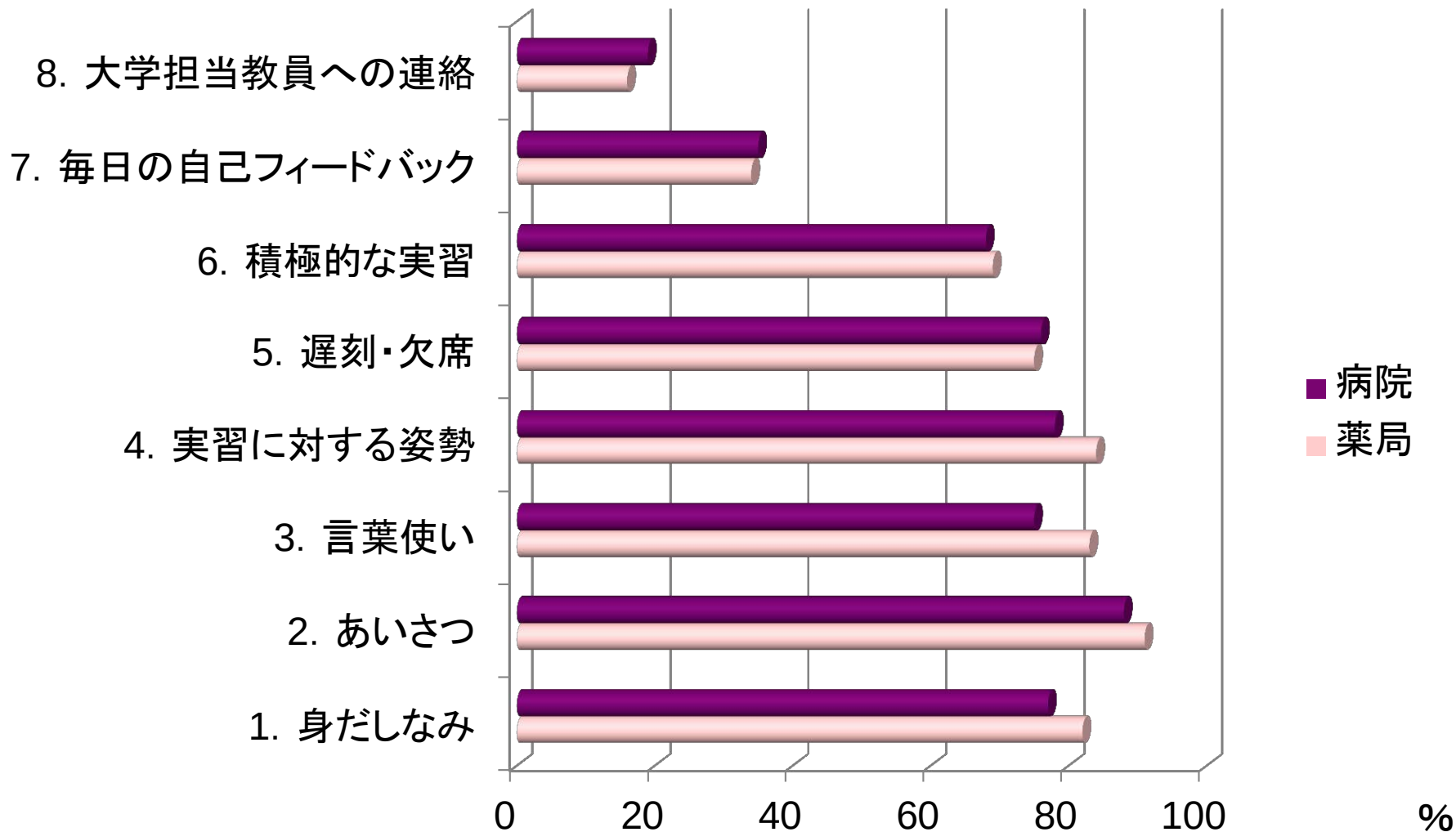
病院実習



薬局実習

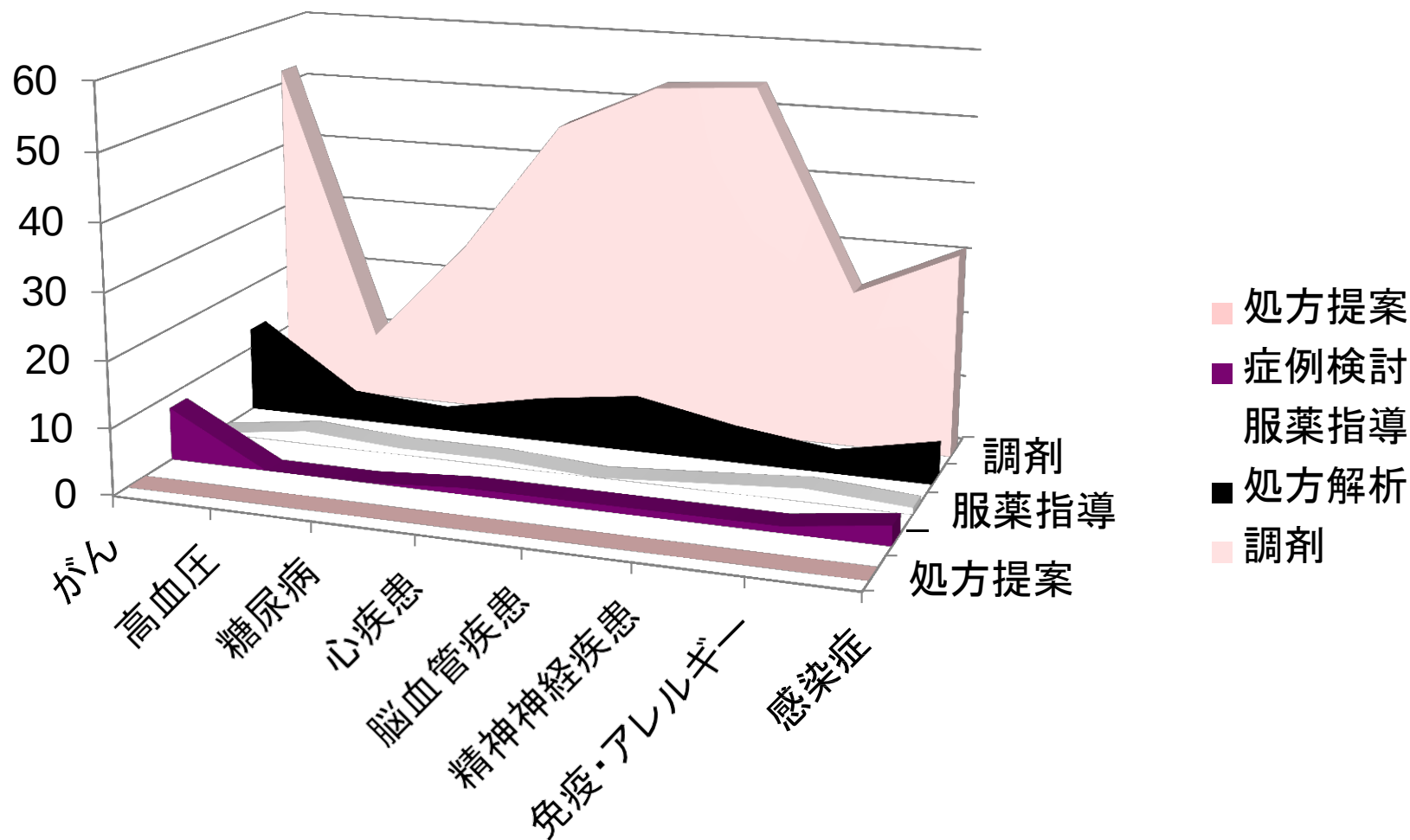
実務実習終了後 学生アンケート結果

Q.実務実習をするうえで特に気を付けたこととは？



平成30年度実務実習のまとめ

代表的8疾患 体験状況 薬局実習





学生の感想 薬局

多くのご施設で、丁寧でやさしい指導をしてもらって感謝する感想が多くあった。

- 服薬指導を経験し、有意義な体験ができ成長できた。
- 薬局に関わるすべての業務内容および連携について理解できた。
- 充実した内容で、様々な体験をさせてもらった。
- 薬局の皆様がやさしく、良い方ばかりで、毎日が楽しい日で勉強になった。
- 貴重な体験、有意義な体験ができた。

川崎病院における実務実習 スケジュール例

曜日	月	火	水	木	金
日時	1週目				
1	オリエンテーション (H011-102)	薬理・薬理実習 (H012-102)	薬理・薬理実習 (H013-102)	薬理・薬理実習 (H014-102)	薬理・薬理実習 (H015-102)
2	薬理・薬理実習 (H016-102)	薬理・薬理実習 (H017-102)	薬理・薬理実習 (H018-102)	薬理・薬理実習 (H019-102)	薬理・薬理実習 (H020-102)
3	薬理・薬理実習 (H021-102)	薬理・薬理実習 (H022-102)	薬理・薬理実習 (H023-102)	薬理・薬理実習 (H024-102)	薬理・薬理実習 (H025-102)
4	薬理・薬理実習 (H026-102)	薬理・薬理実習 (H027-102)	薬理・薬理実習 (H028-102)	薬理・薬理実習 (H029-102)	薬理・薬理実習 (H030-102)
5	薬理・薬理実習 (H031-102)	薬理・薬理実習 (H032-102)	薬理・薬理実習 (H033-102)	薬理・薬理実習 (H034-102)	薬理・薬理実習 (H035-102)
日時	2週目				
1	薬理・薬理実習 (H036-102)	薬理・薬理実習 (H037-102)	薬理・薬理実習 (H038-102)	薬理・薬理実習 (H039-102)	薬理・薬理実習 (H040-102)
2	薬理・薬理実習 (H041-102)	薬理・薬理実習 (H042-102)	薬理・薬理実習 (H043-102)	薬理・薬理実習 (H044-102)	薬理・薬理実習 (H045-102)
3	薬理・薬理実習 (H046-102)	薬理・薬理実習 (H047-102)	薬理・薬理実習 (H048-102)	薬理・薬理実習 (H049-102)	薬理・薬理実習 (H050-102)
4	薬理・薬理実習 (H051-102)	薬理・薬理実習 (H052-102)	薬理・薬理実習 (H053-102)	薬理・薬理実習 (H054-102)	薬理・薬理実習 (H055-102)
5	薬理・薬理実習 (H056-102)	薬理・薬理実習 (H057-102)	薬理・薬理実習 (H058-102)	薬理・薬理実習 (H059-102)	薬理・薬理実習 (H060-102)
日時	3週目				
1	薬理・薬理実習 (H061-102)	薬理・薬理実習 (H062-102)	薬理・薬理実習 (H063-102)	薬理・薬理実習 (H064-102)	薬理・薬理実習 (H065-102)
2	薬理・薬理実習 (H066-102)	薬理・薬理実習 (H067-102)	薬理・薬理実習 (H068-102)	薬理・薬理実習 (H069-102)	薬理・薬理実習 (H070-102)
3	薬理・薬理実習 (H071-102)	薬理・薬理実習 (H072-102)	薬理・薬理実習 (H073-102)	薬理・薬理実習 (H074-102)	薬理・薬理実習 (H075-102)
4	薬理・薬理実習 (H076-102)	薬理・薬理実習 (H077-102)	薬理・薬理実習 (H078-102)	薬理・薬理実習 (H079-102)	薬理・薬理実習 (H080-102)
5	薬理・薬理実習 (H081-102)	薬理・薬理実習 (H082-102)	薬理・薬理実習 (H083-102)	薬理・薬理実習 (H084-102)	薬理・薬理実習 (H085-102)
日時	4週目				
1	薬理・薬理実習 (H086-102)	薬理・薬理実習 (H087-102)	薬理・薬理実習 (H088-102)	薬理・薬理実習 (H089-102)	薬理・薬理実習 (H090-102)
2	薬理・薬理実習 (H091-102)	薬理・薬理実習 (H092-102)	薬理・薬理実習 (H093-102)	薬理・薬理実習 (H094-102)	薬理・薬理実習 (H095-102)
3	薬理・薬理実習 (H096-102)	薬理・薬理実習 (H097-102)	薬理・薬理実習 (H098-102)	薬理・薬理実習 (H099-102)	薬理・薬理実習 (H100-102)
4	薬理・薬理実習 (H101-102)	薬理・薬理実習 (H102-102)	薬理・薬理実習 (H103-102)	薬理・薬理実習 (H104-102)	薬理・薬理実習 (H105-102)
5	薬理・薬理実習 (H106-102)	薬理・薬理実習 (H107-102)	薬理・薬理実習 (H108-102)	薬理・薬理実習 (H109-102)	薬理・薬理実習 (H110-102)
日時	5週目				
1	薬理・薬理実習 (H111-102)	薬理・薬理実習 (H112-102)	薬理・薬理実習 (H113-102)	薬理・薬理実習 (H114-102)	薬理・薬理実習 (H115-102)
2	薬理・薬理実習 (H116-102)	薬理・薬理実習 (H117-102)	薬理・薬理実習 (H118-102)	薬理・薬理実習 (H119-102)	薬理・薬理実習 (H120-102)
3	薬理・薬理実習 (H121-102)	薬理・薬理実習 (H122-102)	薬理・薬理実習 (H123-102)	薬理・薬理実習 (H124-102)	薬理・薬理実習 (H125-102)
4	薬理・薬理実習 (H126-102)	薬理・薬理実習 (H127-102)	薬理・薬理実習 (H128-102)	薬理・薬理実習 (H129-102)	薬理・薬理実習 (H130-102)
5	薬理・薬理実習 (H131-102)	薬理・薬理実習 (H132-102)	薬理・薬理実習 (H133-102)	薬理・薬理実習 (H134-102)	薬理・薬理実習 (H135-102)

曜日	月	火	水	木	金
日時	6週目				
1	院内感染のリスク (H011-102)	院内感染のリスク (H012-102)	院内感染のリスク (H013-102)	院内感染のリスク (H014-102)	院内感染のリスク (H015-102)
2	院内感染のリスク (H016-102)	院内感染のリスク (H017-102)	院内感染のリスク (H018-102)	院内感染のリスク (H019-102)	院内感染のリスク (H020-102)
3	院内感染のリスク (H021-102)	院内感染のリスク (H022-102)	院内感染のリスク (H023-102)	院内感染のリスク (H024-102)	院内感染のリスク (H025-102)
4	院内感染のリスク (H026-102)	院内感染のリスク (H027-102)	院内感染のリスク (H028-102)	院内感染のリスク (H029-102)	院内感染のリスク (H030-102)
5	院内感染のリスク (H031-102)	院内感染のリスク (H032-102)	院内感染のリスク (H033-102)	院内感染のリスク (H034-102)	院内感染のリスク (H035-102)
日時	7週目				
1	院内感染のリスク (H036-102)	院内感染のリスク (H037-102)	院内感染のリスク (H038-102)	院内感染のリスク (H039-102)	院内感染のリスク (H040-102)
2	院内感染のリスク (H041-102)	院内感染のリスク (H042-102)	院内感染のリスク (H043-102)	院内感染のリスク (H044-102)	院内感染のリスク (H045-102)
3	院内感染のリスク (H046-102)	院内感染のリスク (H047-102)	院内感染のリスク (H048-102)	院内感染のリスク (H049-102)	院内感染のリスク (H050-102)
4	院内感染のリスク (H051-102)	院内感染のリスク (H052-102)	院内感染のリスク (H053-102)	院内感染のリスク (H054-102)	院内感染のリスク (H055-102)
5	院内感染のリスク (H056-102)	院内感染のリスク (H057-102)	院内感染のリスク (H058-102)	院内感染のリスク (H059-102)	院内感染のリスク (H060-102)
日時	8週目				
1	院内感染のリスク (H061-102)	院内感染のリスク (H062-102)	院内感染のリスク (H063-102)	院内感染のリスク (H064-102)	院内感染のリスク (H065-102)
2	院内感染のリスク (H066-102)	院内感染のリスク (H067-102)	院内感染のリスク (H068-102)	院内感染のリスク (H069-102)	院内感染のリスク (H070-102)
3	院内感染のリスク (H071-102)	院内感染のリスク (H072-102)	院内感染のリスク (H073-102)	院内感染のリスク (H074-102)	院内感染のリスク (H075-102)
4	院内感染のリスク (H076-102)	院内感染のリスク (H077-102)	院内感染のリスク (H078-102)	院内感染のリスク (H079-102)	院内感染のリスク (H080-102)
5	院内感染のリスク (H081-102)	院内感染のリスク (H082-102)	院内感染のリスク (H083-102)	院内感染のリスク (H084-102)	院内感染のリスク (H085-102)
日時	9週目				
1	院内感染のリスク (H086-102)	院内感染のリスク (H087-102)	院内感染のリスク (H088-102)	院内感染のリスク (H089-102)	院内感染のリスク (H090-102)
2	院内感染のリスク (H091-102)	院内感染のリスク (H092-102)	院内感染のリスク (H093-102)	院内感染のリスク (H094-102)	院内感染のリスク (H095-102)
3	院内感染のリスク (H096-102)	院内感染のリスク (H097-102)	院内感染のリスク (H098-102)	院内感染のリスク (H099-102)	院内感染のリスク (H100-102)
4	院内感染のリスク (H101-102)	院内感染のリスク (H102-102)	院内感染のリスク (H103-102)	院内感染のリスク (H104-102)	院内感染のリスク (H105-102)
5	院内感染のリスク (H106-102)	院内感染のリスク (H107-102)	院内感染のリスク (H108-102)	院内感染のリスク (H109-102)	院内感染のリスク (H110-102)
日時	10週目				
1	院内感染のリスク (H111-102)	院内感染のリスク (H112-102)	院内感染のリスク (H113-102)	院内感染のリスク (H114-102)	院内感染のリスク (H115-102)
2	院内感染のリスク (H116-102)	院内感染のリスク (H117-102)	院内感染のリスク (H118-102)	院内感染のリスク (H119-102)	院内感染のリスク (H120-102)
3	院内感染のリスク (H121-102)	院内感染のリスク (H122-102)	院内感染のリスク (H123-102)	院内感染のリスク (H124-102)	院内感染のリスク (H125-102)
4	院内感染のリスク (H126-102)	院内感染のリスク (H127-102)	院内感染のリスク (H128-102)	院内感染のリスク (H129-102)	院内感染のリスク (H130-102)
5	院内感染のリスク (H131-102)	院内感染のリスク (H132-102)	院内感染のリスク (H133-102)	院内感染のリスク (H134-102)	院内感染のリスク (H135-102)



学生による研究発表会

【学生の研究発表の例】

- ・抗HIV薬の選択と副作用対策
- ・NICUIにおいて動脈酸素飽和度低下時に用いる治療薬
- ・授乳婦に用いられる薬剤の妥当性と服薬指導についての検討
- ・緩和Careにおける鎮痛補助薬について
- ・20歳以下の糖尿病患者について・糖尿病網膜症の症例報告・Steroid糖尿病
- ・治験の実際 など

本日の内容

- ①最近の薬学教育の動向、薬学生の特徴
- ②受入れ施設決定の流れ
- ③新旧コアカリキュラムの比較
- ④新しい評価方法
- ⑤昨年度の新コアカリキュラム実習を終えて
見えてきた問題点(アンケート結果より)
- ⑥学生アンケート結果
- ⑦トラブル他

実務実習中のトラブルのまとめ

- 学生の態度
 - 遅刻・欠席
 - コミュニケーション、報・連・相(報告・連絡・相談)
- 学生の学力・学習姿勢
 - 実践力、課題への対応
 - 学ぶ姿勢
- 疾病
 - 感染症、精神疾患
 - 怪我(事故)
- 実習内容・指導
 - 服薬指導ができない
 - 厳しい
- その他
 - ハラスメント
 - SNS、守秘義務違反



薬局実務実習 トラブル対応事例集 オリエンテーション用資料

学生と指導薬剤師用

日本薬剤師会

ハラスメントと感じた時、どうする？

事 例

- ・ 肩に触れるなど、過度な接触があった
- ・ 過度に接近して指導され、苦痛となった
- ・ 「ダメだ！」、「そんなこともできないのか」などと、高圧的に指導された

なぜ起こったか？

- ・ 双方の親近感のずれにより不快感を与えた
- ・ 指導薬剤師の熱心さを逆にハラスメントと受け取った
- ・ 現場では、事例に対して対応や決定が優先する（理由や見解の説明が遅れることもある）
- ・ 指導薬剤師やスタッフも人間、時には機嫌が悪い日もある
- ・ 学生の不用意な行動や言動が引き金になることもある

どうすればよい？

- ・ ハラスメントと感じたら、まずは自身に問題（誤解を招く言動等）がないか考えてみよう
- ・ ハラスメントを我慢する必要はありません。当該者に率直に伝えましょう
- ・ 当該者に言いにくければ、他のスタッフに相談しましょう
- ・ 改善されなければ、大学の担当教員に報告する

〇〇〇薬局での実務実習を 円滑に楽しく行う為のチェックリスト

☐ チェック 実習施設には、患者の個人情報や薬局スタッフの個人情報、そして企業情報があります。その知り得た情報を第三者(大学や友人も含む)に漏らす事なく、守秘義務を守ってください。

☐ 実習中は以下の〇〇〇薬局のルールを守ってください。

(身だしなみ)

- ☐ 髪の毛(長さ、スタイル、髪の色)
- ☐ 靴や服装
- ☐ アクセサリーの装着、化粧、香水など

(言葉遣い・心構え)

- ☐ 来局者に不快な思いをさせない配慮
 - ・ 気配いを大切に
 - ・ 自分の意見を押し付けない
 - ・ フライバシーを大切に
- ☐ 不快にさせない、丁寧な言葉遣い
 - ・ 聞き上手に
 - ・ 来局者がわからない専門用語は使わない
- ☐ あいさつ・表情
 - 「積極的に」「心を込めて」「はっきりと」
 - 「笑顔で」「姿勢よく」

12

☐ 将来の就職先が薬局志望ではなくても、積極的に実習に参加し、指導者の指示をしっかりと聞いてください。

☐ 実習中、何か疑問や不安を感じたら、早めに指導薬剤師に相談してください。

- ・ 実習スケジュール(実習内容、希望)
- ・ 他の薬局スタッフからの指導や注意
- ・ コミュニケーションが取れない等の不安
- ・ 実習に関係のない指示 など

(なお、相談したからといって、評価には関係ありません。)

☐ 指導薬剤師に相談できない悩みや不満がある場合は早めに次の人に相談してください。

- ・ 薬局のスタッフ ○○ さん
- ・ 大学の担当教員
- ・ 地元の薬剤師会(TL)

(なお、相談したからといって、評価には関係ありません。)

☐ やむを得ず実習を欠席・遅刻・早退する場合は、次のことを守ってください。

- ・ 急性疾患の場合は、実習開始時刻までに必ず連絡する
- ・ 慢性疾患の場合は、事前にその旨を伝えておく
- ・ 冠婚葬祭や就職活動は、なるべく早く相談しておく
- ・ 事故や天災の場合は、速やかに指示を仰ぐ

13

教員の施設訪問

訪問時期		主な目的
事前～ 実習開始初期	実習開始前～ 実習開始後 4 週	事前情報の交換 実習の順応状況の確認 日報・週報・評価の指導
実習中期		実習の進捗状況の確認 指導事項の改善状況の確認 日報・週報・評価の指導
実習後期	～実習開始後11週	SBOsの実施状況の確認 日報・週報・評価の指導

基本的に 2～4回 訪問 文科省は3回訪問を推奨